

日本ダウン症協会(JDS)は、ダウン症のある人のために
そして知的に障害があるすべての人のために
とどまることなく活動을続けてまいります。

公益財団法人 日本ダウン症協会(JDS)

日本ダウン症協会(JDS)は、ダウン症のある人達とその家族、支援者でつくる会員組織です。約5700名の会員がいます。全国各地の親の会と連携しダウン症のある人々の権利を守りより良い暮らしができるように真にインクルーシブな社会を目指して活動しています。

JDSのあゆみ

- 1995年 任意団体として日本ダウン症協会が発足
全国規模で活動してきたダウン症のある子の親の会「こやぎの会」(1963年発足)と財団法人「小鳩会」(1964年発足)が中心となり全国各地の親の会に参加を呼びかけ発足
- 2001年 財団法人日本ダウン症協会となる
- 2008年 国の公益法人改革に伴い特例民法法人となる
- 2013年 公益財団法人日本ダウン症協会となる

主なJDSの活動

- 相談事業
電話・郵便・FAX・メールでの相談
- 情報提供事業
月刊の会報「JDSニュース」の発行
リーフレット・冊子(miniブック、医療関係者向け等)
- 普及啓発事業
セミナーの開催
「世界ダウン症の日」イベントの開催
- 調査研究事業



日本ダウン症協会(JDS)は国際ダウン症連合(DSi)の正規会員です

JDS 公益財団法人
日本ダウン症協会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル5階
TEL:03-6907-1824 FAX:03-6907-1825
URL <http://www.jdss.or.jp/> E-mail info@jdss.or.jp

もっともっと知ってほしい！
**ダウン症のある
人たちのことを**



きずな

今を生きているダウン症のある人たち
これから生まれてくるダウン症の人たちは、
社会や人との絆を必要としています。

心
の
こ
え

Q1 ダウン症って？

正式名は「ダウン症候群」(最初の報告者であるイギリス人のジョン・ラングドン・ダウン医師の名前により命名)で、染色体の突然変異によって起こり、通常、21番目の染色体が1本多くなっていることから「21トリソミー」とも呼ばれます。

Q2 ダウン症の特性は？

ダウン症の特性として、筋肉の緊張度が低く、多くの場合、知的な発達に遅れがあります。発達の道筋は通常の場合とほぼ同じですが、全体的にゆっくり発達します。心疾患などを伴うことも多いのですが、医療や療育、教育が進み、最近ではほとんどの人が普通に学校生活や社会生活を送っています。

Q3 ダウン症は病気ですか？

人間は一人ひとり、違いをもっています。ダウン症は、生まれつきの特性(性格や体質のようなもの)の一つととらえていただきたいです。

Q4 なぜダウン症になるのですか？

私たちの身体のたくさんの細胞の中には、46本の「染色体」というものが入っています。たまたまそれを47本もって生まれてきたのが、ダウン症のある人たちです。偶発的に起こることがほとんどで、誰にでも起こり得ることです。性別や人種、経済状況などにかかわらず、どの国にも約800人から1,000人に1人の割合で生まれます。

Q5 どんなふうに育つのですか？

発達が緩やかなことなどダウン症の影響はあるものの、基本的には個性豊かな「普通の子、普通の人間」で、私たちと大きな違いはありません。子育ても特別でなく、少しゆっくり、丁寧にすればいいのです。

もっともっと
知ってほしい！

ダウン症のある 私たちのこと



ゆっくり生きる私たちの暮らし

乳幼児期



病気があればその治療を第一に考えます。早い時期にダウン症と分かるので早い時期から療育を受けお母さんとのふれあいを大切にしながら暮らしています。成長はゆっくりですが、健常児と同じように保育園や幼稚園に通園し、集団の中での生活をしています。働く母親も増加し、0歳から赤ちゃんを預かる保育環境も増えてきています。ダウン症のある子も早くから入園する場合もあります。

児童期～高校



小学生・中学生は地域にある通常学級や・特別支援学級または特別支援学校に通学しています。学習はもちろんですが体力をつけるための取組や人との接し方を学びます。中学を卒業すると、多くの方は特別支援学校高等部に通います。高1から就労に向けて準備が始まり就労体験や実習を行いながら卒後の事を考えます。また、クラブ活動等に取り組み、活躍の場も広がります。

青年期・成人期



多くは福祉的就労といわれている、障害のある人達が通う事業所で仕事をしています。また、企業就労(一般企業や特例子会社など)で働く人も増えてきています。彼らは、ジョブコーチの支援を受けながら、働き続けられるように就労しています。少数ですが大学や専門学校に行く人もいます。余暇の過ごし方も様々ですが、好きなことを楽しんだり挑戦したりしています。

社会とのかかわり

ダウン症のある人達の活躍の場はとても広がっています。地域にある親の会の活動などに参加し、本人同士のつながりも深めています。余暇の過ごし方も様々でダンス・水泳・バスケットボール・ボウリングや絵画・書道や楽器演奏など多くの楽しみをもっています。ミュージカル・演劇・ダンスなどの場で活躍する人も増えています。テレビやマスコミに登場する機会も着実に増えていて一般の人への啓発につながっています。



キラキラある
ダンスパフォーマンス



毎日楽しく
お仕事しています



3月21日は
「世界ダウン症の日」

国連が国際デーのひとつとして、3月21日を「世界ダウン症の日」として制定。ほとんどのダウン症がある人たちには「21」番目の染色体が「3」本あることから「3月21日」としました。ダウン症のある人たちがその人らしく安心して暮らしていけるように、さまざまな啓発イベントを通して世界中の人々に訴えていくための日です。

JDSでは3月を「ダウン症啓発月間」とし、3月21日に向けて毎年ポスターを制作・配布しています。



●JDS主催のイベントや関連イベントの情報
<http://www.jdss.or.jp/321/index.html>

表紙の題字 金澤 翔子(かなざわしょうこ)さん



日本福祉大学准教授

1985年東京都目黒区に生まれる。5歳から母の師事で書を始める。20歳の時、銀座書廊で初個展。その後、福島に「金澤翔子美術館」を開設。27歳、NHK大河ドラマ「平清盛」揮毫。「銀座金澤翔子美術館」を開設。28歳、国体の開会式で揮毫。天皇の御製を揮毫。30歳、国連本部でスピーチ。ニューヨーク・チェコなどで個展。京都に「シナリー金澤翔子美術館」開設。多くの古社名刹に揮毫・奉納を行い、個展も多数。赤ちゃんをあやするのが得意である。
<http://www.k-shoko.org/profile/>